

10人の議員の一般質問を紹介します。掲載しきれなかったほかの質問は、深川市議会YouTubeチャンネルでご覧いただけます。



【問責決議】

深川市議会議員佐々木一夫君に対する問責決議（議員提案）

（問責決議全文）

佐々木一夫議員は、自身の文責による市議会報告第18号の記載の中で事実とは異なり、市民に誤解を招く内容の文書を配布している。

一つには、事実が商工会議所の会員であるにもかかわらず「S社は、商工会議所からも加盟を拒否されている」と記載している。

一つには、現職議員の実名を挙げて、あたかも疑念があるかのように「選挙管理委員会に問い合わせ中」と記載されている。これも事実確認がなされぬまま記載した上、「問題は無い」という選挙管理委員会からの回答があった以降も文章をそのまま配布し続けており、市民に向けてあたかも何かがあったかのような印象を与えている。

を受けた議会運営委員会で全会一致をもって議長の議事整理権によって進めることが確認され再開されたが、取り扱いを巡って一方的に以降の一般質問を取りやめた。行政と議会とは二元代表制のもと、対等な立場であることは言いつまでもない。

協議し合意され積み上げてきた「深川市議会申し合わせ事項」について否定をしていることも、許されるものではない。よって、佐々木議員に対し、自身の言動責任に強く反省を求め、問責するものである。



ちかさわひろゆき 議員 (公政クラブ)

中山間地域の農地維持を 今後も制度を有効に活用

中山間地域等直接 支払制度：市HP



旧耐震基準の中央公民館

耕作放棄の防止、水路・農道の維持管理など、中山間地域等直接支払制度により急傾斜・緩傾斜の農地が維持されているが、次年度より5期目に移行することから、その概要と市の考えを伺う。

農作業の共同化などの要件が廃止され、集落の将来像を明確化した集落戦略の作成に要件が一本化されるほか、農業生産活動の継続を基本とした遡及返還措置の見直しなどが行われることとなります。

耐震改修促進計画の進捗状況は、昭和56年以前の旧耐震基準で建築された建築物が多くあると思うが、市

内の病院、介護施設、各種学校、保育園の耐震化の進捗状況及び耐震化率について伺う。

なり、合計16棟、51・5%です。また、市有特定建築物の同時期の状況として、対象建築物41棟中、耐震性を確認できない建築物は合計11棟で、耐震化率は73・2%、その後、小中学校等の耐震化工事により、現在は90・2%に改善されています。



おおたこういち 議員 (新政クラブ)

国交省の青函トンネル撤退 国にJRの経営再建を要請

保健・化学物質対策：国HP



JRの貨物輸送

わずか16分の「北海道新幹線」時間短縮のために貨物輸送を廃止することは、北海道の産業を初め生存に対する冒険であり、蔑視、軽視以外の何物でもない。国への支援を要請すべきではないか。

送距離及び日数が伸びるとともに、コストが増大し、生産者所得にも大きな影響を及ぼすものと思定しています。

問題の国策、原発行政は時代錯誤

環境省の施策において、最も高い被ばく線量を受けた小児の集団において甲状腺がんのリスクが増加する可能性が理論的にはあり得るため、県

民健康調査の充実と長期にわたるフォローアップにより、臨床データを収集するとしています。国は調査の継続とともに、調査結果の客観的妥当性を確保するため、被ばくと健康の影響の因果関係を検証し、よりわかりやすく説明していくことが重要と考えます。



まつもとまさひろ 議員
松本雅祐 議員
(令和公明クラブ)

みどり館の整備・改修を 既存設備利用を含め検討

Q グリーンパーク21のみどり館は、地域の憩いの場である。しかし、館内には台所がなく、1階の部屋は和室である。利用しやすいよう台所の設置や、洋間に変更するなどの施設整備について伺う。

A 事務室内に給湯室が設置されているため、一

般の方が利用しにくい状況にありますが、台所の整備は多額の費用を要することから、既存の給湯設備を利用できないか、事務室内の配置を工夫するなど、町内会とも協議し対応を検討していく考えです。

畳の部屋に絨毯を敷くなどの改修は、これまで

の利用状況のほか、同様の市施設の状況も参考にし、市の財政状況も勘案しながら検討していく考えです。

死亡に伴う煩雑な各種手続を解消

Q 親族が亡くなると、遺族は様々な手続のため市役所を訪れる。本市も

「お悔やみ案内コーナー」を設け、必要な書類や書類が一目で分かる書類を作成するなど、遺族の負担軽減について伺う。

A 「お悔やみ案内コーナー」の設置は、1階ロビーの面積上の制限や、情報集約の面で市民課の窓口だけの対応が困難なことから、現状では難

グリーンパーク21：市HP



みどり館

しいものと考えますが、各部署との情報の共有を十分に図り、担当職員が市民課に出向くなど、市民にやさしい窓口に努めていく考えです。また、手続に必要な書類や窓口などを記載した一覧表を作成していますが、案内図を加えるなど、改善していく考えです。



つじもと さとし 議員
辻本 智 議員
(公政クラブ)

高齢化時代の墓地管理は 使用者の確認作業を進める

Q 少子化が進行し、本市の人口動態が変化するなかにあつて、「市内墓地」の管理が適正に行われることが肝要だが、市内にある合同墓及び一般墓地の利用状況について伺う。

A 合同墓は、本年8月末現在で55件221体の申請があり、申請件数の

7割、お骨の埋蔵数では約9割が「墓じまい」によるものです。

一般墓地については、市内全7、072区画中、本年3月末現在で5、345区画が使用されており、このうち、使用者が特定できない264区画については、現地調査や立て看板を設置するなど

確認作業を進めています。が、今後も調査方法を検討し、適正な維持管理に努めていく考えです。

図書館法による市立図書館の運営を

Q 図書館法は社会教育三法の一つで、図書館の設置等必要な事項を定めている。生きがい文化セ

ンター内に市立図書館を設置しているが、運営において図書館法と文部科学省告示は適切に取り扱われているか。

A 本市の図書館は、図書館法に基づかない図書館ですが、公立図書館としての果たすべき使命・役割を担うため、図書館法や文部科学省告示であ

る「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」及び教育委員会で策定した「深川市立図書館の運営方針」の趣旨にのっとり、適切な管理運営をしています。また、指定管理者制度導入においても関係法令の遵守を求めると、適切な運営ができるよう進めています。

図書館：市HP



図書館



ささきかずお 議員
佐々木一夫 議員
(新政クラブ)

道の駅テナント募集問題 決裁は適正に行われている

Q 市はテナントの重複応募を受け付ける決裁を適切にしたというが、重複応募受付の理由も目的も、テナント受付・決定までの決裁文書にないことを確認したいがいかがか。

A テナントの募集の契約行為というのは、深川振興公社が事業執行のた

めに行う契約であることから、振興公社においてテナント募集に関する決裁が行われており、重複応募を認める趣旨の決裁は通常どおりであり、適正であったと受けとめています。

重複応募受付理由「新しい提案」

Q 今になってテナントの重複応募受付理由を「新しい提案を受けるため」というが、そのような理由はテナント受付・決定までの決裁文書にないことを確認したいがいかがか。

A 地域振興審議会の中で、新たな提案をいただくという答弁が振興公社からあったということですが、新たな提案をいただくということが決裁に含まれているという表現ではなく、こうした考え方が含まれているということから、そのことは振興公社として考えること

として不自然なことではないと考えます。

道の駅ライスランド深川：市HP



道の駅ライスランド深川



きたな てるみ 議員
北名照美 (無会派)

保育、教育の場にエアコン

快適な環境整備に努める

Q 今年の夏は連日の猛暑だった。保育所、小中学校にエアコンは必要な設備であり、設置を検討すべきと考える。新築の深川中学校と、建築中の統合保育園ではどうか、考えを伺う。

A 深川中学校は、深川中学校改築基本構想・基本計画の中で、冷房設備

の適切な配置を検討し、保健室、会議室及びパソコン教室に設置したほか、外断熱工法を採用するなど、設計を工夫しています。

統合保育園は、園内の快適性を確保するため、乳児・1歳児用の保育室、中央のホール及び遊戯室に設置するほか、

換気等の配慮や開口部を大きくするなど工夫し、適切な室温になるように考慮しています。

周辺小学校の存続に意欲と対策を

Q 市内の中学校は2校に統合され、小学校は現状の6校体制だが、周辺校(多度志、北新、音江、

納内)は児童数が減少し、存続には具体的手立て、意欲ある取り組みが必要と考えるがいかがか。

A 現在「コミュニティ・スクール」の導入を進めており、地域住民と学校関係者が一緒になって学校経営について協議する体制づくりを行っています。また、研究授業によ

コミュニティスクール：市HP



改築された深川中学校

※無会派 会派に所属していない議員



たなか まさゆき 議員
田中昌幸 (民主クラブ)

選挙投票事務の見直しを

期日前投票所増設を検討

Q 期日前投票を高校、大学、プラザ深川などで実施するなど充実させ、投票日の午後8時までの投票時間を6時まで繰り上げ、開票も10時までの時間とすることの効果、影響、課題について伺う。

A 公職選挙法では終了時刻の繰り上げが認められており、近年の期日前投票の利用者増加などから、投票時間の検討は必要と考えていますが、それにより有権者の選挙離れが進むことのないよう、今後、町内会を通して意見を伺いたいと考えます。

また、期日前投票がより充実したものとなるよう、現在の健康福祉センター、納内・多度志支所のほか、市内中心部に1カ所増設することで、今後、関係機関と協議します。

市職員の安全に対する危機管理は

Q 刃物を振り回し襲ってくる者が深川のようなまちでもいつ来るかも知れないが、市役所の窓口

に暴力を振るってくる者が来た場合の対策、訓練等はどうになっているのか、市の現状を伺う。

A 最近の事例では、行政に対する不満から危険な行為に及ぶことが多く、住民への接し方を改めて考え、「キレさせない」工夫を凝らすことがトラブルを防ぐ近道と考えら

期日前投票・不在者投票：市HP



期日前投票所(市役所)

れています。

本市においては、職員への不当要求行為に対する要綱や、接遇マニュアルの周知などを行っていますが、それ以外の特別な訓練をしている状況ではなく、有効な手段もないことから、他市の事例も参考に研究したいと考えています。



おおま え あきよ 議員
大前昭代 (民主クラブ)

行政と町内会の連携強化を

引き続き活動を支援する

Q コミュニティ活動の促進やセーフティネットの強化、地域防災や災害時における生活機能の維持など、これからの深川市を考えた時に、行政と町内会の連携強化が必須と考えるがいかがか。

A 深川市町内会連合会連絡協議会では、協働のまちづくり市民協議会と

共同で「町内会課題研究会」を設立し、町内会が抱える問題についての検討が行われ、市への要望書をいただいたものです。

市としては、これらの要請に応えるため検討を重ねているところですが、町内会は行政運営上の最も重要なパートナーですので、引き続き持続可能

LGBTとパートナーシップ制度

Q LGBTについて、誰もが理解し受け入れ、偏見や差別をなくすことは、全ての個人に対する偏見をなくすことに繋が

る活動を行うための支援に努めていきたいと考えています。

A この制度は、全国でも徐々に広がりを見せており、道内では札幌市が要綱を制定し推進しています。市では昨年、札幌市のLGBTの取り組みにつ

多様な性について考えよう！：市HP



町内会による防災訓練

いて調査を行い、制度だけでなく民間企業などへの理解・普及が最も重要とのことであり、まずはLGBTに対する正しい理解を深めることが重要と考え、引き続き周知・啓発に努め、先進事例の収集や関係団体等の意見もいただくなど研究したいと考えています。



たばた はるみ
田畑陽美 議員
(民主クラブ)

受動喫煙防止対策について 様々な場面で周知に努める

健康被害が取り上げられている受動喫煙だが、望まない受動喫煙をなくすため、段階的に敷地内禁煙、原則屋内禁煙が義務化される。禁煙化・分煙化が進みつつある中、市の取り組みを伺う。

21により対策を進めており、母子手帳交付時に妊婦や家族への禁煙、分煙の必要性。小学生を対象に「ダメダメたばこ教室」による知識の普及。成人に対しては、健康診査の保健指導や、健康教室などで周知しています。また、受動喫煙防止対策は市HPでも掲載し、今

後も新たな情報があれば速やかに掲載していきます。

自らの身を守る「避難スイッチ」

「豪雨等の災害が多くあるなか、自主的に避難を始める基準を決める「避難スイッチ」を含めた、「自らの身の安全は

自らが守る」ことの市民周知に関する避難対策の取り組みについて伺う。

受動喫煙対策：国HP



昨年の大雨災害



やまもとときお
山本時雄 議員
(令和公明クラブ)

郊外地における市道の現状 耕作道は維持管理で対応

市道音江2号農線はお墓参り時期には利用する車が増えるが、土埃や砂利の減少によるでこぼこなど道路環境が悪いため、切削材による防塵処理などの対策が必要と考えるが、市の見解を伺う。

お墓参りの方々が増える際の迂回路として通行し、交通量の増加に伴う土埃やでこぼこが発生する状況です。しかし、日常は一般車両の通り抜けは少なく、交通量の増加も定期的なものであり、道路整備に関しては民家もない耕作道という性格上、建設事業で取り扱うことは

困難です。今後も、路盤砂利の補充や整地などの維持管理に努めていきます。

しゃんしゃん傘踊り参加について

「しゃんしゃん傘踊りは、市民や市内企業、事業所、団体等が参加し、楽しいひと時を過ごすことが出来る。市民以外にも踊りに参加し、市民と同じ形で踊ってほしいと考えるが、市の考えを伺う。

今後、商工会議所と連携しながら、参加、運営、見物するすべての人が楽しめる「夏まつり」となるよう取り組む考えです。

道路整備状況：市HP



しゃんしゃん傘踊り

市議会活動レポート 議員は現場から学ぶ

深川市議会では、委員会における活動や、議員としての視野を広げるための活動として、さまざまな取り組みを行っています。

今回は、8月26日に行った2常任委員会合同での公共施設等調査と、10月4日に行った深川市議会森林・林業活性化推進議員連盟（以下、林活議連）による研修会についてご紹介します。

～常任委員会合同公共施設等調査～

市議会では、改選期毎に各常任委員会合同で、それぞれの所管する公共施設等の調査を行っています。

今回の施設調査では、近年建設された、「深川あけぼの保育園」、北空知圏学校給食センター「きたそランチ」、JAきたそらち「精米施設」、「深川市有害鳥獣処理施設」の4カ所を視察しました。



深川あけぼの保育園グラウンド

各施設で担当の方から丁寧な説明を受け、コンセプトや新しい機能、使用状況などについてお聞きし、施設への理解を深めるとともに、施設で働く方たちから現場の声を聞くことができました。

～林活議連研修～

深川市の森林・林業の活性化と山村経済の振興に寄与することを目的とした全議員で構成する林活議連では、毎年、道内の林業を中心とした研修事業を実施しています。

本年は、市有林と深川西高等学校の同窓会林の視察を予定していましたが、雨天のため中止となり、研修会のみで開催となりました。

研修会では、深川西高等学校同窓会が作成した同窓会林の映像を鑑賞した後、空知森林管理署北空知支署の佐藤支署長を講師に招き、「北海道国有林の取り組みと深川市の関連」などについて研修を行い、林業への理解を深めました。



佐藤支署長による研修